

## 代表の言葉

まず、初めに私たち 20 歳の節目を迎える日に、このような会を開催していただきまして誠にありがとうございます。

今日、20 歳という節目の年にこれまでを振り返ると、思い出すのは数多くの出会いがありました。生まれた瞬間に最も大きな出会いである父と母に出会い。保育園ではのちに小学校、中学校でもクラスメイトとなる仲間と出会いました。高校では初めて出会うクラスメイトと、そして現在私は就職し、職場の同僚といった数多くの方との出会いがありました。これから先も出会いがなくなることはないと思います。その中には輝くような素敵な出会いもあれば、少し苦い記憶に残る出会いもあるでしょう。これから先にある出会い全てを人生の糧として受け止め、私たちは成長をしていきたいと思います。

これから的人生、私たちはきっと避けることのできない困難に直面することでしょう。自分の思う夢を追いかける中で、挫折を味わうことがあるかもしれません。でもあの日困難に直面しながらも、自分を奮い立たせ前を向いた自分がいたこと。今日ここにいる 20 歳を迎える仲間がいたことを忘れないで「一歩ずつでいい」「ゆっくりでいい」前に進み続けていきたいと思います。困難は乗り越えると、私たちに「成長」と「希望」を与えてくれると考えています。いつかあの経験があったからこそと思える日が来るよう、進んでいきます。

私たちの未来は、これから行動にかかっています。自分の個性を尊重し「自分らしく」を大切にし、まだまだ未熟な私たちですが、誰よりも輝く大人になり、新しい時代の一員となれるよう成長していきたいです。そして、何年後かには、次の世代を支える立場として、誰かの希望になれるような大人になりたいです。

最後に、私たちは今、一つの節目を迎える、そして、未来へと歩みだそうとしています。その未来は決して見ることができず、不安なものであったとしても、私たちは、前に進む推進力があります。私自身も未来に対し、不安がないと言えば嘘になってしまいます。いつか大きな壁にぶつかった時、私たちは時に立ち止まり、時に前へ進むという判断を迫られます。壁に阻まれてもあきらめず、壁に立ち向かうことが大切だと思います。なぜなら、未来は決まっていないからです。たとえるなら私たちの未来は白紙のキャンパスです。そのキャンパスにどんな色を塗るかは私たち次第です。仲間と切磋琢磨し私たちだけの色を塗っていき、いつか作ってよかったですと思える作品にしたいです。一緒に明るい未来へ進んでいきましょう。ありがとうございます。

令和8年1月11日 秋山 幸輝